

# 東日本大震災で 研究者の真価が問われている

北本朝展

国立情報学研究所  
コンテンツ科学研究系  
准教授

二〇一一年三月十一日の東日本大震災。被災された方々には心よ  
りお見舞い申し上げるとともに、一刻も早く将来の生活への見通し  
が見えてくることを願いたい。私自身は直接被災したわけではない  
ものの、今回の大震災の衝撃はいまだに大きく、3・11前の世界が  
遠い昔のことのように感じられる。今回の震災を通して、「自分は  
何のために研究しているのか」という問いを改めて突きつけられた。  
地震活動期に入ったとも言われる日本で、今回の震災で得た新しい  
知見をどのように活用できるか。電力不足が長期化する見通しの中  
で、研究で利用する設備の電力消費をどう有効活用すればいいのか。  
そして私たちは3・11後の日本をどのように変革できるのか。日本  
の研究者が真価を問われる時代が来た。

## 初動段階での即時対応は難しかった

大震災発生当日、私は帰宅困難者として外出先で一夜を過ごして  
いた。すでに情報の混乱が始まっており、私は大量に流通する情報  
に圧倒されていた。しかし、緊急時の情報処理は私の研究テーマの  
一つでもある。その成果を目の前の緊急事態に活かすために、即応  
態勢で各種の情報収集を開始した。地震、津波、そして原発事故。  
現実の世界は急速に変化していった。

結果的に痛感したのは、初動段階においては手持ちの知識と手持

ちの道具を最大限に使い回すしか選択肢はなく、現実の進展に合わ  
せて知識を仕入れて道具を作るのでは現実には追いつけないとい  
うことだった。今回の震災で得られた教訓をまとめ、すぐに使える知識  
と道具として整備しておくこと。次の災害への備えとして、これを  
やらねばと思っている。

## 復興に向けて研究者の知恵を共有しよう

長期的な復興はこれからが本番となるが、今回の大震災で生じた  
問題はどれも巨大で、複合的かつ多面的なものである。こうした問  
題を解決するには、複数の学問分野から研究者が集まり、それぞ  
れの専門性を活かして知恵を出し合い、知恵を共有しながら問題解決  
に当たることが重要だと私は考えている。問題の巨大さから見れば、  
一人の研究者が備える専門的知識は限られている。問題解決とい  
う共通目標のもとに多くの研究者が力を合わせて、新たな解決策を生  
み出していかねばならない。

今回の大震災は確かに日本史上まれな巨大自然災害ではあるが、  
多くの不作為によって災害が拡大したという面もある。このような  
不作為を繰り返さず、研究者に対する社会の信頼を高めるためにも、  
多くの研究者が積極的に東日本大震災の問題解決に取り組んで欲し  
いと願っている。



情報から知を紡ぎだす。

# NII

国立情報学研究所ニュース [NII Today] 第52号 平成23年6月

発行：大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所  
http://www.nii.ac.jp/

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋2丁目1番2号 学術総合センター

編集長：東倉洋一 表紙画：小森 誠 写真撮影：由利修一 デザイン：GRiD

制作：日本印刷株式会社

本誌についてのお問い合わせ：企画推進本部広報普及チーム

TEL：03-4212-2131 FAX：03-4212-2150 e-mail：kouhou@nii.ac.jp

表紙イラスト

学術研究を支える情報基盤として広く利用されてきた「SINET3」は、2011年4月から「SINET4」に生まれ変わりました。新しい「SINET4」は、より速く堅牢なネットワークとなり、充実したサービスを提供しています。そして今回の東日本大震災では、災害に強いことも証明されました。